

青年部・女性部

ふるさとの良いさを再発見

創作の輪と人の輪の両輪で『おかみさん虎の巻』作製

富山県城端商工会女性部

富山県南西部に位置したわが町・城端は、昨年、町村合併で南砺市となりました。

城端は、昔から絹織物業が盛んで、善徳寺とともに栄え、四五〇年の歴史のある町です。

市街地のど真ん中に国道三〇四号が通っていて、拡幅で新しい町並みできました。

ちよつと小路を歩けば、坂道・石畳・白壁や格子戸など古い町並みも残っていて、活気と風情を感じさせます。曳山祭や麦屋祭が継続され、自然にも大変恵まれています。

私たち女性部は、平成十年から「ふるさとの良さを再発見しよう！」と、女性の視点で城端の活性化に取り組むことを目標に掲げ、月一回の活動を続けています。

町立ての勉強会を重ねていくうちに、あらためて歴史の深さ、数多くの文化人を生み、伝統が引き継がれ

ている偉大さを知りました。

町の良さを知った私たちは、「私たちも、できることから何かやってみよう。お金をかけられない分、汗と知恵を出そう！」と、実践活動を始めました。

青竹の花器を作ったの花いっばい運動。一つのテーマに絞り込んだマツ作り（書き込み善徳寺・じょうはな散策・おかみさん）。地名入り表示板作り、青竹のオブジェ、手織体験「やすんでかれタペストリー」などを作りました。

これらの活動を通して、魅力あるまちづくりの原点は「人」であること。人と人との出会い、ふれあいがいかに大切かということを感じました。どんなに歴史のある観光施設を見学したり、すばらしい宿に泊まっておいしい料理を食べたりしても、時間とともにその印象は薄れていってしまいます。



『おかみさん虎の巻』の活用を考える

しかし、立ち寄ったあのお店、あのおかみさんと交わした言葉は：忘れられないものです。楽しかった、親切で温かかった！という思いは、心に深く残り、もう一度行ってみたい！という気分にならせてくれます。対応が悪かったら反対になる場合もあります。が：人の温もりが町の温もりとなります。

昨年八月の勉強会（六八回目）の時に、若手部員から、「不意に来られた方から、城端のことや他のお店のことを尋ねられた時、即答できず、不愉快な思いをさせてしまったのは：」「わかりやすい資料があったらいいね」という意見が出ました。



青竹のオブジェ。水ろうそくをともして、古い町並みを「かぐや娘通り」としてまつりを盛り上げる。



花器づくり



青竹の花器とオブジェ作りの竹を選ぶ

「それじゃ、私たちの手で作ってみよう」と、話が盛り上がったのです。部員の何気ない意見によって、私たちは心を一つにして目的意識を持ちながら活動をスタートしました。

今まで即答できずに困ったこと、もっと知りたいこと、これだけは知っておきたいこと、それぞれを項目別にまとめて、役割分担しました。

町の方に聞いたり、図書館で調べたり、まちなかを散策したりしました。グループで勉強したり、ご主人と協力している方、さまざまなやり方で行いました。月一回の勉強会の時、お互いに進み具合を語り合いながら、検討しました。

城端の地形から始まり、地場産業、散策コース、見どころ案内など、多彩な項目を取り上げました。

善徳寺については、この六年間の勉強会の集大成として、詳細な内容を盛り込み、案内するポイントを挙げ、部員の誰もがガイドできるようにまとめてみました。

情緒あふれる町並みはイラストで、食べ処・お土産処のお店紹介にはおかみさんの似顔絵を活用しました。専門知識のない私たちにとって、冊子づくりは大変なことでした。

文字はすべて手書きなので、何度も書いては消し、消しては書きなが

ら、誤字、脱字に注意しなければなりません。より見やすく、そして親しみのあるものにしたたい一心で、頑張って書き上げました。七〇頁の私たちの「オンラインワン（宝物）」の六〇〇冊。心温まるものに完成したのです。

『虎の巻』作製により、部員の方はあらためて町の再確認ができ、他のお店のこともわかり合えたのです。部員相互の創作の輪、人の輪ができ、一つのことをやり遂げる達成感と満足感を味わうことができました。

部員はもちろん、町関係者各位に配布しました。小中学校では、とてもわかりやすいので教材として使いたいと喜ばれました。

また、城端のお土産品の一つとして、観光施設やお店に置くことにもなりました。



善徳寺での勉強会。観光ガイドの練習。

マスコミにも取り上げられ、新聞、広報誌、ホームページなどに載せていただき、町のPRにも一役買いました。

資金がないから活動しない、活動できないのではないことを、この『虎の巻』づくりは教えてくれました。

女性部としての活動は、とても地道なことかもしれません。時間はかかるかもしれないけれど、頑張っていれば、誰かがそれを見守ってくれ、人々に、地域に浸透していくはず。そして元氣のあるところには必ず人が集まり、自然と外から声がかかるようになります。

当町も、近年、観光や視察研修にと少しずつではありますが、交流人口が増えるようになりました。

どのような活動でも、その効果をすぐに求めてはいけません。

「そんなことをして何になる。利益もないのに」「好きでやっとなるがやろう」と、おっしゃる方もまだいます。

かけがえのない「人づくりの輪」がより広がったこと。私たちは、これに勝るものはないと思っています。

「歴史と伝統と文化が響く城端」——こんな素晴らしい城端を！大好きな城端を！訪ねて来られるあなたに、そして次の世代の子供たちに伝えた気持ちでいっぱいです。